

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ふくいけんりつこしこうとうがっこう				②所在都道府県	福井県	
26～30	①学校名	福井県立高志高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	理数科3学年計	112名	
普通科 (一部)	304 (80)	303 (80)	339 (80)		946 (240)	普通科3学年計	946名	
	平成26年度の2年生は50名を対象とする					総合計	1,058名	
⑥研究開発構想名	ふくい発、東アジアの発展と希望に貢献するグローバル・リーダーの育成							
⑦研究開発の概要	第一に国際化を進める大学・企業等と連携して、海外フィールドワークや海外インターンシップを含む課題探究学習等を行う教育課程を開発する。第二に英語学習環境を整備し、生徒や教員の英語力に取り組む。第三に全教科で授業改善を進めるとともに、帰国子女・外国人生徒等の受入れを促進する学校改革等を進め、海外留学・海外大学進学を意識を高揚する。第四に各種コンテスト等に参加するほか、国内外の高校生と切磋琢磨する課外活動等を充実する。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					本校の校訓「克己・創造・敬愛」に基づき、日本及び世界の平和と繁栄、国際協調に貢献する「知・徳・体の調和のとれた国際社会及び地域社会のリーダー」を育成する。	
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					<p>・福井県有数の普通科・理数科を擁する進学校として、多くの中学生・保護者から認知されている。平成15年度のSSH初指定以来現在に至るまで全校をあげて研究開発に取り組んでおり、本年度から理数科のみならず普通科でも課題研究の学習に取り組んでいる。</p> <p>・一方、昨今の社会情勢は猛スピードで変化しており、グローバルな社会問題、ビジネス問題に果敢に取り組み、日本及び世界の平和と繁栄、国際協調に貢献できるグローバル・リーダーの育成が強く要請されていることに鑑み、SSHとSGHの両輪により将来有為な人材を育成するために、以下の仮説のもとにSGHの研究開発に取り組むこととした。</p> <p>【仮説1】グローバルな社会問題に対する意識が高い生徒を対象に、大学・グローバル企業・国際NGO等と連携し、海外フィールドワーク・海外インターンシップ等を含む課題研究及び関連する学習活動等を行うことにより、問題発見能力、論理的思考力、企画立案能力、コミュニケーション能力等を身に付け、将来国内・海外の大学においてグローバルな研究を行う素地を育成できる。</p> <p>【仮説2】生徒と教員に実践的な英語学習ができる環境を整備し、海外の高校生や大学生と英会話を行う機会を増やすことにより、批判的・論理的思考力をもって世界の諸問題について理解したり、豊かな表現力をもって解決策について議論したりするなどの、堪能な英語コミュニケーション能力を身に付けることができる。</p> <p>【仮説3】全教科の授業において学習指導要領の趣旨を踏まえて授業改善を進めることのほか、2学期制・単位制の導入、帰国子女・外国人生徒の受入れ環境の整備、海外研修・国際交流の促進等を進めることにより、海外留学や海外大学への進学志向を有したグローバル人材を育成することができる。</p> <p>【仮説4】各種コンテスト等への参加や県内外及び海外の高校生と切磋琢磨する社会科学系の課外活動等を充実することにより、グローバルな視野、挑戦力、起業家精神、幅広い教養、論理的思考等に優れ、社会にイノベーションを起こす人材を育成することができる。</p>	
		(3) 成果の普及					・授業公開、オープンスクール、公開研究会を毎年開催し、研究の成果と課題を発信する	

	<p>とともに、研究の進捗状況を随時ホームページで発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究ワークショップ等については、県内外の中・高校生、大学生、教員等にも参加機会を提供し、成果の普及を図る。 ・平成 26、27 年度は県教育研究所において進捗状況を発表する。平成 28 年度に研究開発中間報告会、平成 30 年度に研究開発最終報告会を開催して、成果と課題を発信する。
<p>⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 「経済・社会」「生活・文化」「工学・技術」の3つのサブテーマに分かれ、生産拠点・消費市場としての東アジア経済、日本との関係、東アジア地域における言語、教育と貧困、食生活や住環境、東アジアの人々を豊かにする工学・技術の普及等について課題研究を行う。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 ・総合的な学習の時間(グローバル探究)を活用し、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、東京大学社会科学研究所、福井県立大学地域経済研究所、福井大学全学・全センター、福井経済同友会・国際NGO等と連携してグループ研究を行う。連携大学、企業からは、リレー講義、課題研究の指導助言、海外交渉、発表の評価等の支援を仰ぐ。 ・生徒の学習の評価は、学習活動の観察評価のほかレポート・プレゼンテーションのパフォーマンス評価等により評価する。事業の評価は、評価会議での指摘のほか、国際化に重点を置く大学への進学者数、大学における課題研究活動の追跡調査、論文、各種コンクール等への出品・入賞実績等により評価する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 SGH対象生徒は「社会と情報」を履修せず、その内容を「グローバルリテラシー」「グローバル英語 I」、総合的な学習の時間(グローバル探究)で代替する。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ・課題研究を言語運用面から支援する学校設定科目「グローバルリテラシー」「グローバル英語 I・II・III」、内容面から支援する「グローバル現代社会」「アジアの経済」「アジアの言語・文化」を開設して、課題研究の質を向上する。 ・生徒の学習の評価は、観察評価、パフォーマンス評価のほか、ペーパーテストや外部検定のスコア等により評価する。事業の評価は、CEFRのB1～2レベルの生徒の割合、公共性の高い論文コンクール等への出品・入賞実績等により評価する。 ・英語学習e-learning システムを整備して生徒・教員の英語学習の便宜を図るとともに、図書館を拡張してグローバルライブラリーを設置し、課題研究に関係する英文資料のほか海外の雑誌や留学関係資料等を配架する。 ・現在姉妹校提携を結んでいるアメリカの高校のほかに、東南アジア、オーストラリア等の中学、高等学校と姉妹校提携して相互交流を推進するとともに、時差の少ない海外姉妹校との間にテレビ会議システムを導入し発表・討論の授業を実施する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 該当なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ・全教科で学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改革を進めるほか、2学期制・単位制教育課程の導入、入学者選抜の改善、選択型海外研修の実施、海外姉妹校交流の充実等により、帰国子女・外国人生徒を積極的に受け入れる。 ・日本海沿岸各県のSGH指定校、東南アジア諸国の高校生や来日留学生と「環日本海SGHリーダーズキャンプ」(平成 28 年度以降開催)を実施し、国内外の高校生等と切磋琢磨する。そのために北陸3県のSGH指定校で交流を進めるとともに、「課題研究ワークショップ」「グローバルキャンプ」等を開催して、ノウハウを蓄積する。 ・グローバルソーシャルスタディ部(GSS部)を新設し、各種ビジネスコンテスト・セミナー、高校生模擬国連等に参加する。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は平成 27 年4月に附属中学校を開校し、福井県で初の併設型中高一貫教育を開始する予定である。併設型中高一貫教育では、これまでの本校の教育方針を踏まえつつ、ふるさとに誇りを持ち、日本語、英語の高いコミュニケーション能力とともに、幅広い教養や問題解決能力などの国際的素養を備え、将来的に政治・経済・法律、その他人文科学や自然科学等の学術分野において、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成する構想があり、そのための各種教育環境を整備する計画がある。</p>

ふりがな	ふくいけんりつこしこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	福井県立高志高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人(30年度)
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	80人(30年度)
	— 人	56 人	人	人	人	人	人	
目標設定の考え方: 課題研究や学校設定科目などにより社会問題に対する意識を高め、社会貢献・自己研鑽活動につなげる。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人(30年度)
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	10人(30年度)
	11 人	15 人	人	人	人	人	人	
目標設定の考え方: PBLによる授業改革、単位制・2学期制の導入、海外姉妹校提携などにより、海外留学指向を高める。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80% (30年度)
	SGH対象生徒以外:		%	%	%	%	%	40% (30年度)
	— %	36%	%	%	%	%	%	
目標設定の考え方: 海外フィールドワークを含む社会科学系の課題研究によりグローバルな社会問題に対する意識を高める。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	5人(30年度)
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	1人(30年度)
	0 人	0 人	人	人	人	人	人	
目標設定の考え方: GSS部を設置し意欲と能力の高い生徒を国内外のコンテスト等に積極的に参加させる。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80% (30年度)
	SGH対象生徒以外:		%	%	%	%	%	60% (30年度)
	40%	42%	%	%	%	%	%	
目標設定の考え方: 授業の改善、学校設定科目の開発、e-learningシステム構築などにより卓越した英語コミュニケーション能力を育成する。								
新たな仕事やサービスを考え出したり、社会にイノベーションを起こすよう仕事をしたいと考える生徒の割合								
f	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80% (30年度)
	SGH対象生徒以外:		%	%	%	%	%	55% (30年度)
	—	40%	%	%	%	%	%	
目標設定の考え方: 環日本海SGHリーダーズキャンプにより東アジアの持続的発展への課題意識を醸成する。								
東南アジア諸国の産業や経済、それらと日本の関わりについて積極的に学ぼうとする生徒の割合								
g	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80% (30年度)
	SGH対象生徒以外:		%	%	%	%	%	60% (30年度)
	—	48%	%	%	%	%	%	
目標設定の考え方: 課題研究や学校設定科目などにより、東アジアに貢献し、東アジアと共に希望ある社会を構築していこうとする態度を育てる。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%(30年度)
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	35%(30年度)
目標設定の考え方: グローバルマインドの醸成により、国際化に重点を置く大学への進学指向を醸成する。 (文部科学省が支援する大学に限定しない場合、進学率は24、25年度それぞれ43%、目標値をSGH対象生徒80%、対象生徒以外60%とする。)									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	3人(30年度)
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	1人(30年度)
目標設定の考え方: 進路指導の改革により海外大学進学のための進路指導研究を行う。海外大進学指導の教員を配置する。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%(32年度)
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	30%(32年度)
目標設定の考え方: 広い視野や中・長期的な目的意識を持って進学する生徒の増加を図る。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人(32年度)
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	5人(32年度)
目標設定の考え方: 海外に目を向けて社会科学的課題の解決に挑もうとする生徒の増加を図る。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	33人	32人	人	人	人	人	人	83人(30年度)
目標設定の考え方: 海外姉妹校の増加、提携の強化により、国外での課題研究研修機会を計画的に拡充する。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	223人	225人	人	人	人	人	人	430人(30年度)
目標設定の考え方: 本校SGH課題研究発表会に加え、国内のSGH校が集まる発表会等に参加する。(SSHの課題研究発表会も含む)								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	1校	校	校	校	校	校	4校(30年度)
目標設定の考え方: 現在姉妹校提携を結んでいる米国のほか、アジア、オーストラリア等の高校との姉妹校提携を行う。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	33人	33人	人	人	人	人	人	90人(30年度)
目標設定の考え方: SGH学校設定科目群を大学、企業等との連携により推進する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2人	2人	人	人	人	人	人	12人(30年度)
目標設定の考え方: SGH学校設定科目群を大学、企業等との連携により推進する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	14人	18人	人	人	人	人	人	40人(30年度)
目標設定の考え方: GSS部の創設・活動やリーダーズキャンプなど、国内外の高校生徒と切磋琢磨し人材を育成する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	2人	人	人	人	人	人	4人(30年度)
目標設定の考え方: 2学期制・単位制の導入により、帰国子女・外国人生徒等の受け入れを増やす。								
先進校としての研究発表回数								
h	1回	1回	回	回	回	回	回	3回(30年度)
目標設定の考え方: SSHの成果発表も含めて、県内外の小・中・高等学校、大学、企業へ研究開発の成果と課題を発信していく。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている	△一部整備されている	×整備されていない					○(26年度)
目標設定の考え方: 校内組織見直しによる広報機能の充実を図り、外国語によるホームページを整備していく。								
国内外の若者と、世界の人々の暮らしや社会の仕組みの改善について、議論するセミナー等に参加した生徒。								
j	0人	0人	人	人	人	人	人	80人(30年度)
目標設定の考え方: 環日本海SGHリーダーズキャンプ、グローバルワークショップ、グローバルキャンプにおいて国内外の若者と議論を行う。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,139	1,094					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							